

背景・目的

人工林の多くが利用期に達し、伐採や植林など林業生産活動が活発化しており、人材の育成が喫緊の課題となっていることから、道では、林業・木材産業の即戦力となり、将来的に企業等の中核を担う地域に根差した人材を育成するため、令和2年4月に北海道立北の森づくり専門学院を旭川市に設置しました。

開校から3年目となる本学院における人材育成のこれまでの取組や実績を紹介するとともに、今後の取組方向について考察します。

内容・成果

1 概要

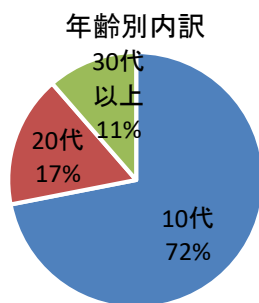
名称	北海道立北の森づくり専門学院(略称:北森カレッジ)		
場所	旭川市	運営形態	専修学校
就学要件	道内の林業関係企業等への就業を希望する者で ・高校卒業程度の学力を有する ・入学時に40歳以下		
修学期間	2年間	学年定員	40人

令和3年度の教育課程(単位:コマ数:90分/コマ)

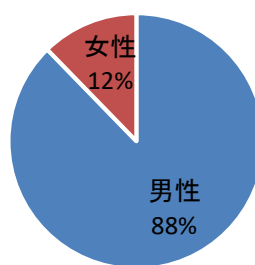
区分	講義	実習	実習割合
1学年	216	420	66%
2学年	140	534	79%
合計	356	954	73%

2 入学生の状況

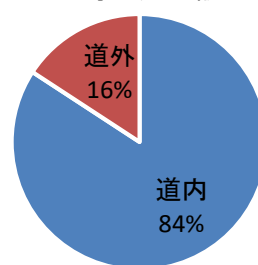
区分	推薦	一般	合計
1期生	9	25	34
2期生	31	9	40
3期生	20	20	40



性別内訳



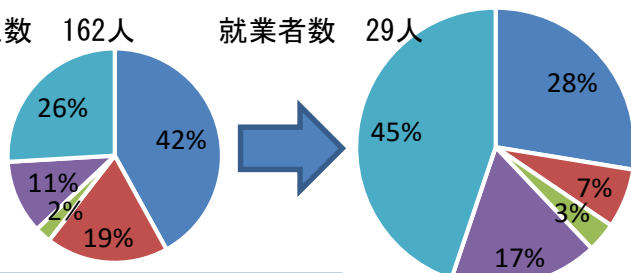
出身地別内訳



3 卒業生の状況(令和3年度)

求人数 162人

就業者数 29人

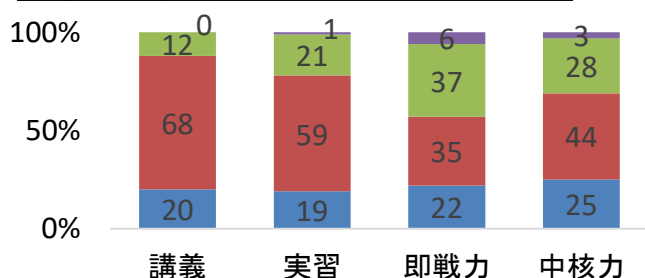


- 素材生産
- 造林
- 種苗
- 木材産業
- 森林組合等

※学院の無料職業紹介事業等により道内に就職した者を計上

- 卒業生の全員が林業・木材産業関係に就職。
- 生徒の約6割がインターンシップ先の企業に就職。
- 就職先は、勤務地、社風・人間関係が特に重視され、次いで業種、給与などが就職の決定因子となっている。

4 授業内容の評価(令和3年度生徒アンケート)



- 大変良い
- 良い
- あまり良くない
- 良くない

- 講義は幅広い知識を習得でき満足度が高いが、実習は待ち時間が長く、量も足りないなどの評価。
- 即戦力として期待されるチェーンソー等の技術習得への満足度は低い状況。

今後の取組方向

- ・1期生の募集では定員40名を割りましたが、その後は定員を確保しています。受験生を安定的に確保するため、農業高校森林科学科との連携強化に加え、道内の都市部や道外へのPRの強化が必要です。
- ・生徒の多くが林業の現場への就業を希望する中、授業では講義による知識習得に比べ、実習による技術習得に対する満足度が低い状況となっています。こうした課題を踏まえ、今年度から総合選択実習に技能養成コースを創設したほか、企業と連携した実践的な実習や経営者育成コースも検討しています。
- ・即戦力人材の円滑な就業に向けては、業界との緊密な連携のもと、機械操作方式のJIS規格化や安全を重視した伐倒技術の普及、キャリアに応じた月給制の導入促進等についても取り組む考えです。